

平成28年度第1回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築設計士1名）の評価結果の概要は以下のとおりです。

中間評価対象課題（4課題）

●スギ中径材の強度及び含水率の推定方法に関する方法

評価平均点 16.25点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

目的達成の可能性： きわめて高い(1)、高い(3)

課題の取り扱い： 取り組みを強める(4)

【主な意見】

- ・プレゼンの中で最終的にどのような成果を目指すか説明した方がよい。
- ・公共事業だけでなく、民間の木造建築においても、今後ヤング率が重要になってくる。丸太の状態でヤング率が推定できるのは有意義である。
- ・実験デザインが明確で実行も信頼できる。結果のさらなる解析により、丸太の空間的不均一性の評価や解釈を期待する。

●スギ厚板を用いた新たな床工法の開発

評価平均点 16.25点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(1)、取り組みを強める(3)

【主な意見】

- ・床倍率の向上と施工手間を工夫し、普及しやすい工法を開発されたい。
- ・実務に使える実用的・現実的な結果を期待する。
- ・専門外の者でもわかりやすい優れたプレゼンテーションであった。
- ・手間と床倍率のトレードオフを理解しやすくするため、次回はコストなども示してほしい。その際、合板などとも比較されたい。

●スギ・ヒノキエリートツリーのコンテナ苗生産技術に関する研究

評価平均点 16.25点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(1)、取り組みを強める(3)

【主な意見】

- ・コンテナ苗に限らず、より安価で扱いやすい苗の生産を目指されたい。
- ・実験の過程で生じるトラブルに適切に対応されている。
- ・育苗試験には一定時間がかかるため、成果が出るまでじっくり取り組める環境が必要である。ただ、コンテナ苗の普及はコストがかなり下がらないと難しいと感じた。

事前評価課題 (3 課題)

●森林作業道の路体支持力に影響する要因に関する研究

評価平均点 14.75 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(4)

新規独創性： 高い(3)、低い(1)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： 大いに期待できる(1)、ある程度期待できる(2)、あまり期待できない(2)

【主な意見】

- ・現況把握で出てきた課題を基に、路体支持力に限らず、より三重県の山林に適した道づくりが進むような研究に取り組んでほしい。
- ・基礎研究としての位置づけとしても、さらに課題を増やして行く必要がある。
- ・(評価者としては) 地質による分類に興味があり、期待が持てる。

●三重県における早生樹種の成長特性の解明に関する研究

評価平均点 15.75 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(4)

新規独創性： 高い(3)、低い(1)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： 大いに期待できる(1)、ある程度期待できる(3)

【主な意見】

- ・センダンの造林が可能であれば面白い。
- ・外国マツの調査は興味深いのが、実際に造林する際は、生態系への影響等をどう評価するかが課題になる。
- ・林業の収益を高めるために、有効な研究である。
- ・九州でのデータがあるので、具体的な仮説を立てて実験デザインを作るべき。
- ・環境条件をきちんと測定し、影響要因を定量的に評価してほしい。
- ・土壌含水率と日射量のグラディエントの観測は必須なので、できれば連続自記測

定されたい。

●短期培養で生産可能なきのこ栽培技術の開発

評価平均点 15.50 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(3)、緊急に必要ではない(1)

新規独創性： 高い(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： ある程度期待できる(4)

【主な意見】

- ・野生に近いエノキダケができて、白色系のものと差別化できれば面白い。
- ・ヤマブシタケに関しては他県等の事例をよく研究してからが良い。
- ・新しいきのこの普及に繋がる研究成果を期待する。